

2019 7 JUL No.370

ARCHITECT

THE JAPAN INSTITUTE OF ARCHITECTS

CONTENTS

エッセイ：鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム	2
吉野 勝己	
東海支部総会記念講演会	3
尾関 利勝	
通常総会レポート	4
中澤 賢一・大橋 康孝・内田 実成・服部 昌也	
三重総会記念講演会	5
西出 章	
自作自演 233	6
堀内 康久	
わたしのとっておき①	6
車戸 慎夫	
保存情報 第 212 回	
登録有形文化財：豊橋市上水道施設小鷹野浄水場	
旧ポンプ室ほか周辺施設	7
鈴木 利明	
データ発掘：文化遺産は町の誇り	
(岐阜県北方町界隈)	7
藤田淑子	
地域会だより	8
Bulletin Board	8
編集後記	8
伊藤彰彦・生田京子	
美術サロン	表 3

表紙撮影：牧ヒデアキ(JIA 愛知・makira DESIGN)



今昔物語(構造編)

計算尺→タイガー計算機(写真なし・昭和35年製造中止33000円)→卓上計算機(昭和47年製83000円)→ポケットコンピュータ(BASICプログラム可)→NEC88シリーズ→ノートパソコン。皆さんはどのあたりからですか?左下は昭和37年の計算書でB5の方眼紙に2mm(小さい!)の文字。当時の計算書は方眼紙が主流のようです。構造計算書も新耐震以降は構造解析ソフトを使うようになり随分と厚くなりました。手計算の頃は耐震壁も保有水平体力もないので薄い。しかも、見やすい。(どこに何が書いてあるかが判り易い)ソフト会社によって微妙に書式が異なるのも厄介です。某構造事務所の若いスタッフに20年前の計算書を見せたら、解読できなかったという笑い話もあります。以前、大先輩に計算尺を見せて「できます?」と尋ねたら「自転車と同じで暫く使っとらんでも手が覚えとる。」との返事でした。今回は記録・保存です。



城戸 康近 (JIA愛知)
城戸武男建築事務所

かま くら ぶん か かん
鎌倉文華館

つるがおか
鶴岡ミュージアム



大銀杏の展示があるカフェ

令和元年5月1日、2016年3月31日より閉館されていた坂倉準三氏設計の美術館が、借地権期間満期により、神奈川県から鶴岡八幡宮に無償譲渡され、新たに「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」として耐震補強され再度見学可能となりました。

久々に訪れた小町通りは小雨まじりの天候にも関わらず、レンタルの和装の着物姿の観光客で賑わっておりました。

改修を担当された坂倉建築研究所の大倉久明さんと山岡嘉彌さん(同・技術顧問)の両氏から説明による、保存修復の内容をうかがいました。大きな改修としては、身障者EVを新たに設け、柱脚補強をしながらISGW工法による耐震壁を設置し、2階床

と屋根に水平ブレースを設けています。屋根も当初の折板状の屋根を復元、外壁はアスベスト板10mmVPを強化フレキシブルボード12mmに変更し、大谷石の壁も部分的に積み替え、可能な限り、当初の意匠に近づけています。中庭の床も土間スラブを普通スラブに造り替え、バリアフリーを考慮し豆砂利洗い出しとしています。



屋根：当初の姿を復元

ただ、残念なのはかつてはここにあったイサム・ノグチの彫刻「こけし」が葉山に移設されてしまい、ちょっと寂しく思われました。

懇親会では、改修内容のスライドで、詳細な説明があり、久々に阪田誠造さんの奥様・娘さんを始め、坂倉OB・OGの先輩

諸氏、さらにはお孫さんまで参加し、楽しい一時を過ごす事ができました。



すぐ隣には鶴岡八幡宮ゆかりの貴重な歴史的遺産である、実朝が暗殺された脇にあった大銀杏の現物が展示された鉄骨造のカフェが8月にはオープンする予定だそうです。



懇親会の様子



ISGW 工法による壁補強



吉野 勝己 (JIA 愛知)

株式会社 吉野設計研究所

2019 JIA 東海支部総会記念講演会

復興からまちづくり

講師 鈴木弘二 本部長・副会長・東北支部長

2019年5月10日(金)午後、JIA 東海支部愛知地域会総会に引き続き、東海支部総会が名古屋栄のアパ・ホテル4階会議室で開催された。総会は愛知地域会・東海支部ともに無事成立、その後、同じ会場で、総会に来賓として招かれた鈴木弘二本部長・副会長・東北支部長の記念講演が行われた。

講演は「復興からまちづくりへ」を題とし、「JIA 建築家大会2019 青森 IN HIROSAKI」(津軽からの再生 -生き続ける近代建築とまちづくり-)の広報を兼ね、主として「東北震災における被災体験～公民の復興・支援活動、その中のJIA会員の建築家あるいは個人～事務所の仕事としての取組み実績の紹介、復興を巡る大きな流れへの評価と疑問、今後の課題」など、飾りのない一人の建築家としての素直な意見をお聴きすることが出来た。

お話は被災直後の避難所体験、家族～知人の生存確認から始まり、その後、JIA

支部役員～復興に取り組む建築家として知り得た復興施策に関わる国・県・市町の行政的取組、仮設住宅～復興住宅づくりに関わるJIA支部～地域会の取組、JIA会員～事務所の仕事の取組、東京～有名建築家の関わりへの懐疑的とも思われる評価をはじめ、震災直後から今日まで時系列的に、具体的かつ細かくご紹介頂いた。

はじめは具体的な各論の話から始まり、講演がどんなお話になるのか、つかみ所が無いと思われたが、終わってみれば東北3県における被災と復興の取組の全貌を、大筋、把握することができ、被災の体験と復興の涙ぐましいほどの取組に深い感銘を受けた。全体に復興が進む中、課題は福島～原発被災地の復興が遺されていることと指摘されていた。

一方、今年2月2日(土)、JIA東海支部「東日本震災復興に学ぶ」講演会で、JIA東北支部宮城地域会手島浩之会員から、仮設住宅、復興住宅の高台移転に関わる住宅

計画・設計作成、住民合意形成のお話を伺い、復興に関わる住宅計画論～合意形成論的な取組実績、成果、課題など、大変勉強になった。

その後、今回の記念講演で、今年2度目の東北被災～復興に関わるお話を伺うことになった。今回は、鈴木東北支部長個人の目を通して、被災～復興～建築家の仕事に関わる全体的なお話を、客観と主観を交えて伺うことが出来た。通常の講演には無いリアリズムである。これが良かった。震災非体験者であり、解るはずもない私達の立場にもかかわらず、被災～復興プロセスの全体的な枠組みが解るような気がしてきた。

このお話をお聞きし、東海支部会員として、JIA東北支部会員の活動経験を受け止め、これからどうするか、間違いなくやってくる東海・東南海地震にどう備えるかが、身にしみる課題だと実感している。



講演中の鈴木東北支部長



懇親会来賓と鈴木東北支部長(右から2人目)



尾関 利勝 (JIA愛知)
(株)地域計画建築研究所 名古屋事務所

東海支部

5月10日(金)
APAホテル名古屋錦にて



矢田義典支部長 懇親会の様子

2019年度支部総会の出席者は56名。有効委任状151名との合計は207名で、会員数337名の61.4%。昨年の60.2%を上回る定足数で総会成立が確定した。議長鳥居久保会員の進行により、2018年度事業報告・収支決算、静岡地域会の役員選任に関する議案はいずれも承認された。

2018年度事業報告では、2度にわたる事務局員の交代に始まり、任期途中での地域会長交代、会報誌アーキテクトおよび東海学生卒業設計コンクールの見直しなど、例年にはない取り組むべき課題が多

く、綱渡りの一年であったが、会員及び関係者の協力により無事一年務めることが出来たと報告された。その他、近畿支部との交流会を2度開催したこと、建築基本法、災害対策に関する取り組みについても報告された。支部発足から30年、平成最後の一年に、支部内部の改変を行いつつ、外部へ向けて新たな活動を開始できたことは大きな成果であったと感じる。

収支報告では、支出に事務局員への退職金が計上され、会報誌アーキテクトの編集費用が前年から55万円ほど増大した

が、予算額を上回る協賛金収入が得られたため、黒字決算となったことが説明された。これを受け、法人協会会費を始め、協賛金に大きく依存している体制を見直すことが今後の課題だと述べられた。

2019年度の事業計画では、「登録建築家」「国際交流」「建築基本法」「災害対策支援」「建築教育」をキーワードに、例年通りの支部事業に加え、会員一人一人が活動主体となる新たなスタイルの支部大会開催が検討されており、より多くの会員参加を呼びかけられた。また今年度、開催を見合わせる事となった東海学生卒業設計コンクールは、卒業設計よりも早期に学生へアプローチする方針で新たな展開を検討するとのことで、今年度も様々な改革が行われることが

予想される。

予算案では、アーキテクトの改革により支出が60万円削減されていることが伝えられた。

その後の懇親会では講演会講演者である東北支部長鈴木弘二会員と建築八団体各代表者を来賓に、法人協会会員を含む総勢69名が参加。会員種別・地域会・支部・団体の枠を超えた交流の場となったが、やはり若手会員の参加が少なく、世代間の交流に課題が残る結果となった。



中澤 賢一 (JIA愛知)
会報委員会委員長

静岡地域会

4月22日(月)
ペガサートにて



大瀧地域会長が、八木紀彰新地域会長予定者を紹介

今年度の総会では、現大瀧正也地域会長の退任により、八木紀彰氏が新地域会長予定者として紹介された。八木紀彰新地域会長予定者は挨拶の中で、静岡地域会が毎年90万ほどの金額を事業積立預金から取り崩し予算を成立させてきたこと、従来の予算を執行した場合あと2年ほどで地域会財政が破綻するという現状を説明した。その上で財政と会員サービスの在り方を整理し、当年度の支出は当年度の収入で賄うのを基本とする様々な改革を行うことで、会員の方々が安心して活動に取

り組める環境を作りたいと述べられた。

通常総会終了後は、長谷川逸子氏による記念講演が行われ、初めての一般参加費の有料化にも係わらず例年を上回る参加者であった。講演会終了後に、講師、来賓、法人協力会、個人協力会員も交えての和やかな懇親会が開かれた。



大橋 康孝 (JIA静岡)
株式会社高橋茂弥建築設計事務所

愛知地域会

5月10日(金)
APAホテル名古屋錦にて



吉元学地域会長

出席者43名。昨年に比べ若手会員が少なく感じられた。議長小田義彦会員の進行により、2018年度事業報告・収支決算、いずれも承認された。

吉元地域会長から、会員数2.5% (6名) 減は全国平均3%減に比べて低く、これは6名の新規入会に依っていると伝えられた。これに対し、決算において法人協会会費、名刺広告費が予算額より少なく、今後の地域会運営において、この2本柱の増強が重要であることも伝えられた。

2019年度事業計画は「建築家の人生に寄り添う」がキー

ワード。JIAが建築家のための「場」として、草創期から爛熟期まで建築家と共にあり続けるべく、主に3つの事業(「(仮称)けんちくカフェス2019(支部大会2019)」の開催・「建築家+(仮称)こどもけんちくハンドブック」の出版・「中部公共建築設計懇談会愛知作業部会」の設立)を柱に活動を展開する。どれも単年度で結果が出る内容ではないが、長く継続することでJIAの価値を形成し、集うことで多くのことが得られる実りある組織にしたいとのことだった。

中澤 賢一 (JIA愛知)
プリテン委員会委員長

岐阜地域会

4月18日(木)
ホテルグランパール岐山にて



山田地域会会長

大瀧繁巳氏の司会進行により、山田浩史岐阜地域会長の挨拶で会は始まりました。山田地域会長は「昨年はJIAの窓等で新たな建築家との出会いもあり、今期は若干名だが新規入会も決まっている。会員拡大はなかなか難しいが、引続き力を入れていきたい。」と決意を述べました。その後、議長には岡田典久氏が選出され議案審議が進められました。

はじめに1号議案として、山田地域会長より「2018年度事業報告」小塚進氏より「2018年度収支決算報告」がなされ、滞りなく可決承認されました。

続いて報告事項にて、山田地域会長が「2019年度岐阜地域会役員」「2019年度事業計画案」を発表し、続いて今年度より会計に就任した内田実成氏より「2018年度収支予算案」が報告され、総会は滞りなく終了しました。その後会場を移動し、来賓、法人協力会員を交えての懇親会が催されました。



内田 実成 (JIA岐阜)
内田建築設計事務所

三重地域会

4月19日(金)
津・東洋軒にて



豊田地域会長

清水名誉会員

地域正会員15名と矢田支部長・澤村幹事長の臨席の下、議長奥野会員により議事が進行されました。昨年度の地域会の事業と会計報告により、他県からの講師を招いた講演会や建築ウォッチング、建築展などの一般の方とも関わりをもった地域会活動の充実ぶりイベント時の三重地域会会員の団結感を振り返りました。

一方、会員から通常例会の出席者の少なさと協議時間の不足についての指摘があげられ、豊田地域会長より例会の協議時間確保とそのため役員会の時間効率を上げる

Web役員会の試行など例会充実のための方針が示されました。また名誉会員となられた清水会員の証書とメダルの披露も行われました。

総会の後は記念講演会と懇親会が行われ、東洋軒の名物「黒カレー」を皆で味わうとともに、総会ならではの県内各所の会員との近況報告・情報交換の機会となりました。



服部 昌也 (JIA三重)
株式会社八武組

講演会レポート | Lecture Report

2019 JIA 三重総会記念講演会

4月19日(金)総会に引き続き、記念講演会が開催されました。文化庁国立近現代建築資料館主任建築資料調査官 桐原武志氏を講師に迎え、建築アーカイブについて講演をいただきました。

文化庁国立近現代建築資料館は、2012年に設置された国の施設です。場所は、東京湯島旧岩崎邸庭園に隣接しています。日本の近現代建築に関する資料が劣化、散逸、海外への流出などを防ぐことを目的とし、所在の調査や資料の収集、保管を行っています。例えば、丹下健三先生の原因はハーバード大学にあり、日本にはマイクロフィ



建築アーカイブについて

ルムしか無い。1970年大阪万博の世界初空気膜構造の資料はポンピードセンターに行っている。スケッチやパースなどは芸術性が高いので、ポンピードセンターとしては、図面などより断然価値があるとのこと。それらの貴重な資料が流出するのを阻止しなければならないが、保管する受け皿が今まで日本には無かったので、この施設が出来たことは有意義なことです。歴史資料保有施設に該当するが、これらの資料は行政文書では無いので公開できます。講演では、国立代々木競技場の図面をスライドで写しながら、屋根を吊る2本のケーブルが、トップライトを取るために中央で開いていることや、両袖のアンカーを支持する地中梁は、三角形を形成しており室内のプールを挟み込むように配置されているなど、図面を読んで初めて理解出来る貴重な事柄を教えてください。収集した資料は、整理して目録を作って保存する。和紙の図面は良いが、

トレーシングペーパーになると保存が難しい。特にトレペに貼られているセロテープがくせ者だと言われたことは、経験者としてもよく理解出来ます。

又、桐原氏は、JIA千代田地域会で活動をされており、そちらでは、解体された建築の記録本を作られています。例えば、神田2軒長屋の解体の記録では、単なる建築資料としてでは無く、そこに住まわれていた住人が後に孫に聞かせてあげる様な形の記録本を作りたい。具体的には、時期により変化していった間取りや、その時の生活、文化をイラストにして記録に残すことで、そこでの生活も記憶に残すという記録の方法をとられています。記録の保管の意義、重要性を勉強した講演会でした。



西出 章 (JIA三重)
株式会社森永建築設計事務所

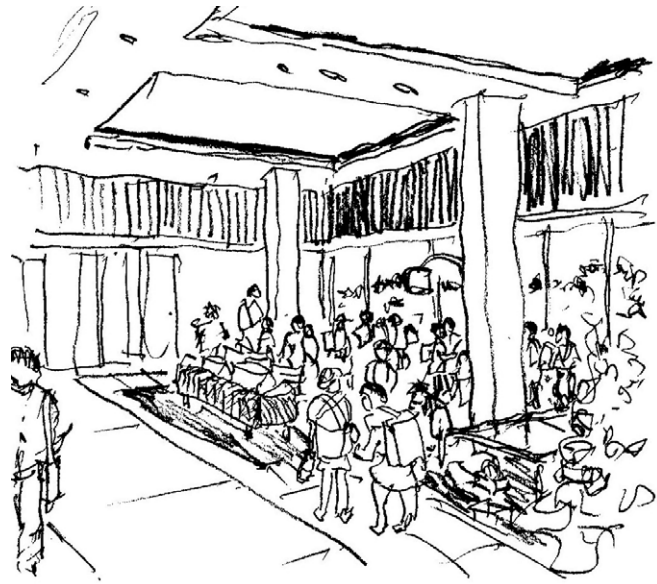
小さな幸せ

実は去年マンションの住人となった。晴れて後期高齢者の仲間入りのタイミングで、という訳ではなくかみさんのたつての希望で急にそのような事になった。まさか「他作」のいわゆる「マンション」に住まうとは思いかけぬことではあったし、移るとしても自ら設計するホームで「自作自演」の終活をと夢想していた……。

はるか昔になるが結構多くの集合住宅を手掛けた。当時のクライアントには申し訳ないが満足いく出来のものは一つも無かつ

たし、正直ここには住みたくないと思いつつ画を描く辛さが身に染みている自分がいる。

ところがしばらくここに住んで今までとは少し違うイメージを持ち始めた事に気が付いた。周りとは一切関係なく廊下ですれ違ってもただ挨拶するだけの毎日
で時間が過ぎてゆくと覚悟していたが、比較的安価であるせいか若いファミリーも多くいて小さい子も多い。毎朝出勤時にロビーに集合して群団登校する彼らたちと「おはよー」、「オハヨウゴザイマス」と声を掛け合う、そのうちに子供ひとり一人の顔がわかるにつれ会話もするようになった。こんな些細な事でも何かその日の元気をもらったようで「あーいいな」と小さな幸



せを感じるのは年のせいなのか？

こんな気持ちを何時でも何処でも、どの世代であっても感じられるような幸せ感一杯な空間造りをしたい。



堀内 康久 (JIA 愛知)

(有)堀内建築研究所

わたしのとっておき 11

思い出のヴェネツィアングラス

「ボクは産まれる1年程前に母を亡くしているの、母性を感じさせる君のような人は本当に魅力的で惹かれてしまう。」と、どの飲み屋に行っても、飲み干したグラスを渡しながら、二回りも年の離れた若い女性を誘う、優秀な建築構造家の知人がいる。不思議なことに、「生まれる前にお母さんを亡くして、なぜ貴方は今この世にいるの？」と突っ込む女性はほとんど皆無で、お店ならではの社交辞令でもなく「ありがとう、嬉しい。」と満更でもなさそうに、優しく酒のおかわりを作り出す。



ブルーの縞模様の各々全ての中心に小さな気泡が入っている。

30年以上前になるが、何度か所員とイタリア旅行に行く機会があり(良い時代でした)、妻に絵のモチーフとなるヴェネツィアングラスを土産品に頼まれてヴェネツィアを訪れた。それなりの店で、少し高価であったが妻のスケッチと瓜二つの赤いグラスを手に入れることが出来た。店を出よう

とすると、イタリア人らしく小洒落た芸術家風の店員に呼び止められ、奥まったショーケースの前に導かれた。

「これは国宝となった初期のヴェネツィアングラスのレプリカで、10個作成して残った3個のうちの一つです。」と誇らしげに説明(伊語、英語?)を受け、購入を勧められた。今思えば、「生まれる前に亡くなった母」のような話だが、ガラスも古色でこんな国宝があるに違いないと思い、また「残った3個」も真実味と希少性を感じさせるに十分で、結局手に入れた。

今でも、TVの「お宝鑑定団」を見る度に、「あれ、出品してみたら。」と妻に怪しげな微笑みを浮かべながら勧められる。真疑を確かめなければ、私にとってはイタリアの思い出が注がれた「とっておき」の一品であり続ける。



車戸 慎夫 (JIA 岐阜)

(株)車戸建築事務所

登録有形文化財

豊橋市上水道施設小鷹野浄水場旧ポンプ室ほか周辺施設

自宅近くで日頃見慣れた浄水場のゲートの建造物が、2018年秋、市上水道関連の一連計5施設同時の代表格で登録有形文化財に登録された。その翌年6月初めの「水道週間」に、改めて詳しく公開見学の機を得た。

戦前の水道関連建造物には当時流行した様式建築の採用が見られるが、まさに昭和初期建造のこの旧ポンプ室は、厚重感のある彫りの深い石造風の外観で、中空層も抱く厚い外壁でしっかりシンメトリー平面を形成し、四隅の壁体マッス表現と中央部5連の縦スリット深窓のリズム感の対比が見事である。柱際の繊細なモールディングやその上部等に施された幾何学模様の粋な装飾連携も興味深い。昭和56(1981)年の新ポンプ室建設に伴う転用改修により、当初の地下ポンプ井は閉鎖され外観細部も随所に様変わりしたと聞かすが、十分な見応えを今に残している。

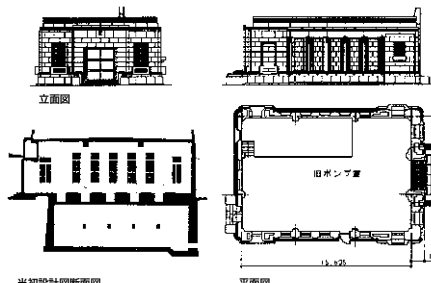


小鷹野浄水場旧ポンプ室(現・薬品注入機室)南東外観

同時登録の直結施設「多米配水場旧配水池」も併せて見学・現地調査できた。浄水場ろ過池から隣接山上にポンプアップされた市の高置水槽たるタンク塔足元の、縦56m×横30mの平坦マウンド下の半地下構造物で、長辺中央両側に内部点検通路を結ぶ「通路入口」建物が桜並木緑蔭に静かに佇む。このペア建物はともに間口2.7m×奥行3.1mの同形で極小ながら、基礎部は花崗岩・軒下までタイル張のシックな外壁に石枠・カーブ状尖頭アーチ開口をきりりと穿った、洒落たゴシック風建築を誇示する。



多米配水場旧配水池「通路入口」建物 外観



当初設計図断面図
小鷹野浄水場旧ポンプ室当初設計図(豊橋市美術館提供)

昔々地元民は自由に、この小山を上りこのマウンドに遊びこころ近郷を見晴らした、今は諸制約でそれがまならぬのが何とも寂しい。



所在地：豊橋市東小鷹野二丁目9-3
(旧配水池：豊橋市多米町字蟬川33-149)
構造規模(同時登録2棟3基のうち下記1棟1基を掲載)
旧ポンプ室：鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積174㎡
建設年代：昭和4(1929)年(23-0528)
多米配水場旧配水池：鉄筋コンクリート造、面積1230㎡
建設年代：昭和4(1929)年(23-0529)
※()は登録番号、登録日は2018年11月2日

所有者：豊橋市上下水道局(設計：豊橋市水道局)
問合せ：豊橋市文化財センター 電話 0532-56-6060
アクセス：豊橋鉄道市内線(市電)「赤岩口」より徒歩5分

鈴木 利明 (JIA 愛知)
デザイン スズキ



データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

文化遺産は町の誇り (岐阜県北方町界隈)

岐阜市の西に境を接する北方町は、都に通じる東山道に沿う歴史の古い町である。

町なかの西順寺には「時の太鼓」と呼ばれる太鼓楼があり、毎年時の記念日、早朝「六つの刻」に始まり、おやつ時間(八つ)を含めて6回、時を告げる太鼓が打ち鳴らされる。近隣の学校の子供達にも楽しみながら文化財について理解を深めてもらおうと、令和元(2019)年は学校の都合に合わせて6月7日に行われた。当日町を訪れ、幸い「北方の歴史と文化を学ぶ会」代表の廣瀬志郎氏にお会いし、文化遺産の保存、町民、特に若い人たちへの啓蒙活動などについて、お話を伺うことができ、北方踊りの見学や、楼上で太鼓を叩かせていただく機会にも恵まれた。

西順寺の近くに、空海が弘仁年間(810-824)に開創した広大な境内を持つ円鏡寺がある。楼門は、三間一戸、入母屋造、椀皮葺。軒は二軒垂木で、上層には高欄を廻らし、組物は和様の三手先である。



円鏡寺楼門



図書館前に復元された冠木門



西順寺太鼓楼

軒の深い均整のとれたこの楼門は、明治神宮南楼門のモデルとなったと言われている。楼門には「永仁丙七月廿日勅進...大工は八重則光 小工同則定」と記されていて、建設年代と大工を知る上でも貴重である。運慶の作と伝えられる二体の金剛力士像を配し、国の重要文化財に指定されている。

元禄11(1698)年、北方領主の戸田光賢は冠木門と太鼓櫓を町々13ヶ所に配し、夜間は許可なくは通行禁止。開門・閉門の合図には上述の太鼓が使われていた。町立図書館の入り口に冠木門が復元されている。その図書館には「北方町歴史資料展示室」があり、貴重な資料が分かりやすく展示されている。一方、町役場の隣には、磯崎新氏が設計したモダンなデザインの「生涯学習センターきらり」がある。



所在地：岐阜県本巣郡北方町
参考資料：(1) 北方町の文化財
北方町文化財保護協会、1998
(2) 北方町 文化財だより 縮刷版Ⅱ
北方町文化財保護協会、2005
(3) よくわかる北方の歴史と文化
北方の歴史と文化を学ぶ会、2010
(4) 北方町志(復刻版) 北方町、1989
(原著は大正4(1915)年発行)

藤田 淑子 (JIA 愛知)
名古屋文化短期大学名誉教授



第14回 JIA 愛知美術サロン展開催！

最高の鑑賞者数！今後に期待！

出展作は、6月号(6名)、7月号に(8名)掲載されています。

やっと会則もでき、これからの美術サロンです。関心のある方はお気軽に、代表幹事：田中英彦（連空間都市設計事務所）まで。



中欧の旅 水彩 ポストサイズ

20年前の12月、クリスマスマーケット。コンサートイベントで賑わう中欧を訪ねた。暖かく好天に恵まれ、夜遅くまで街歩きを楽しんだ。カレル橋の彫像に願えば叶うと、世界平和を!!と願った。

神谷 義夫

神谷義夫建築設計事務所



裸婦 クロッキー

昨年末からデッサン会、デッサン旅行に参加させていただいております。その中のクロッキーの1枚。翌日には腕が筋肉痛になるほど。1本の線を描くのに集中するのは気持ちのいい感覚です。一人では重い腰があがらないのですが、皆さんの熱意に助けられ楽しく参加させていただいております。

金山 美登利

モブ構造設計



origin: 起源、発端、源泉... 水彩 縦48センチ×横110センチ

はじめての場所。はじめての風景画。はじめての水彩。はじめての展覧会。私の“はじめて”が詰まった作品。あのとき、あの瞬間に感じたはじまりの感覚を忘れないように。

杉岡 敬幸

石本建築事務所(非会員)



縄文の女神 パステル A2

昨年東京国立博物館において「縄文の美」をテーマに展覧会が開催された。縄文時代の国宝に指定された6件すべてが展示され、その中で《縄文の女神》を、草原にすくと立ち暁天を見上げる姿として描いた。

山田 正博

建築計画工房

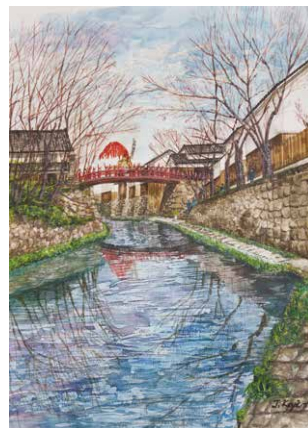


白鳥庭園 油彩 P30

中部地区最大級の池泉回遊式庭園。冬の庭園は、人影もまばらで、鑑賞用の雪つりが水面に映り美しい。講師を務める生涯学習センターの、旅のスケッチ教室の皆さんと名古屋を巡っています。

田中 英彦

連空間都市設計事務所



早春の水面 水彩 F8

何を描きたい? 2日目題材探しに長い時間を要しました。芽吹きかけた木々・水面に映し出された近江八幡のたたずまい... 時の移ろいと天候に惑わされつつも、当地の空気感を満喫しながら“早春の移ろい”を描きたかったデビュー作です。お祭りの、橋を渡る神輿に遭遇もラッキーでした。

小山 哲男

小山内装



本を手にする人 油彩 F20

この絵と向かい合って色を重ねていくうちに、本当にこちらに話しかけてくれるような生き生きとした空気を感じさせてくれました。人物を描く事がこんなに楽しいものだと思えて一層感慨無量となりました。

山田 尊久

山田 尊久建築設計事務所



近江八幡・橋の下から 水彩 F20

今回初めて20号に挑戦しました。大きな絵を描くというのはこんなに楽しいものだとは知りませんでした。とにかく楽しい。目標は、自然やモノの生きている様子を表現出来たらと、思っています。

花岡 正康

ブルーーム一級建築士事務所(非会員)

